

「体験すること」

3年 Y.A

最近、ニュースや新聞で「保育士足りず」という文字をよく目にしませんか？私は子どもが好きということもあるせいか、去年の夏休みの課題で新聞記事のスクラップを作っている際に何度も目にとまりました。内容としては、給料が安い、その割に仕事がきついといった事が書かれていました。私は、自分が好きな仕事をしているのであり、自分が望んでいない仕事をするよりも楽しそうではないかと思っていました。そして、仕事がきついというのはどれくらいなのか、文字で読むだけでは分からないと感じていました。

そんな私に、去年の夏休みに、実際に保育の体験をさせてもらえる機会がありました。毎夏、世田谷区が主催している夏ボラという三日間の体験プログラムで、世田谷区に在住、もしくは区内の学校に通っている学生なら誰でも応募出来るものでした。体験出来る場所も様々で、保育園、老人ホーム、障がい者施設から選べます。私がこのプログラムに応募しようと思ったきっかけは、三つ上の姉が私と同じ中学三年生の時に学校からの課題で参加していたからです。そして私もやってみたいと思ったこと、小さい子の面倒をみるのが好きでこの仕事に興味を持っているといういくつかの理由からでした。

初日、保育士の仕事を実際に体験してみると、休む暇なく、ずっと動いていました。プールの時間は一緒に遊び、子ども達が着がえている間に何人かでビニールプールと下に引いてあったブルーシートを掃除して乾かします。また、昼寝の間もおもちゃ一つ一つを消毒、本の修正、さらに部屋の雑巾がけ、とやることは本当に沢山ありました。私が最も印象に残っていることは昼食です。一緒に食べるだけかと思いきや、保育士さんは一人一人のおかわりの回数と何を残したのかを記録していました。この記録を始め、保育園では健康状態をデータで管理するなどして徹底していました。私は行くまで保育園はパソコンを使うことはないだろうと思っていたので驚きました。

また、二歳児を例に、子どもが六人に対して大人は一人、と一人で複数の子どもを見なければいけません。ですから、保育士の仕事は周りをよく見て行動しなければいけないのだと分かりました。

そして、私は今回実際に体験してみて保育士の仕事がどんなことでも子ども達に付き合うということが大切だと知りました。どんなに些細な喧嘩も、恥ずかしいと感じたごっこ遊びも、適当に流すのではなくきちんと子どもの話を聞いてあげることです。小さい子にとってきちんと聞いてくれているということが伝わるだけで子どもは心を開いてくれたり頼ってくれます。私は人の話を聞くということが得意ではなく、よく途中でさえぎってしまいます。だから、最後まで聞くように改善していきたいと思います。

最終日、保育士さんに直接お話を聞くこともできました。その時、私は「人手不足で辛いと思ったことはありますか？」とたずねると、保育士さんは、「もちろんある。仕事は多いし子どもは何をするか分からないから結構ハード。だけど子ども達の笑顔を見ると頑張ろうと思える。」と話されていました。

今回、ニュースで見聞きしていただけだったのが実際に体験してみて保育士という仕事

の現状が本当によく分かりました。そして、保育士という仕事の良さも大変さも知った上で、好きなことが仕事に出来ていてやっぱり楽しそうだなと思いました。

ニュースや新聞は問題となっている悪い部分を書きがちです。だから悪いイメージがつきやすいのかも知れません。でも実際に体験することで良い所が悪い所を勝ることもあります。皆さんも何か興味のあることがあれば体験してみてくださいませんか？